

まなびの輪

—大洗おしゃべり広場からのステップアップ—

教育・研究

地域交流

課外活動

国際交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科3年 高野 千絵美

連携先

大洗国際交流協会

(大洗町役場 まちづくり推進課)

顧問教員

横溝 環 (人文学部・准教授)

参加者

岩崎 翔平 (人文学部 3年)

関沢 彩子 (人文学部 3年)

高野千絵美 (人文学部 3年)

田中あゆみ (人文学部 3年)

リュウ・ワン・シェン (人文学部 3年)

阿部 和政 (人文学部 2年)

市川 駿 (人文学部 2年)

荻野 千春 (人文学部 2年)

軽部 蓮 (人文学部 2年)

川本 早紀 (人文学部 2年)

高 穎瑜 (人文学部 2年)

佐藤 紗希 (人文学部 2年)

鈴木智香子 (人文学部 2年)

玉造 夏帆 (人文学部 2年)

藤堂みさ都 (人文学部 2年)

中川 広文 (人文学部 2年)

藤井 駿丞 (人文学部 2年)

山田 浩輝 (人文学部 2年)

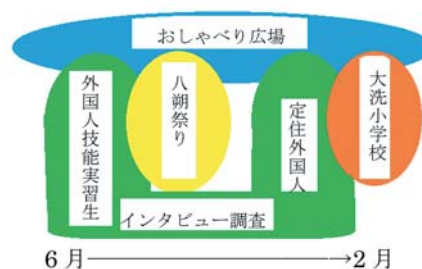
吉岡 杏 (人文学部 2年)

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、大洗国際交流協会と連携し、大洗在住の外国人と日本人の結びつき

を強め、多文化共生のまちづくりを推進することを目的とする。大洗おしゃべり広場は、東日本大震災が起きた際、日本人と外国人のネットワークの重要性が認識されたことから始まった。まなびの輪は、おしゃべり広場で3年間にわたり築き上げてきたつながりをもとに、新たな活動を展開すべく結成された。そのスタートとして、大洗住民は何を求めているのか、私たちにできることは何なのかを知るために町の方々の協力のもとニーズ調査を実施した。現在は、その結果を踏まえた上で大洗小学校の取り出し授業の学習支援を行っている。

プロジェクトの成果報告



【活動内容の概要図】

1. おしゃべり広場

おしゃべり広場は、まなびの輪の活動の中で、情報共有および関係構築の場としての役割を果たしている。以下、活動内容の概略を述べる。

第一回は、日本語を話せない方々も楽しく交流ができるようジェスチャーゲームを行った(参加者42名)。大洗に関係すること(水族

館、ヤンキーなど)をお題にすることにより、日本人外国人関係なく非言語交流を楽しむことができた。



ジェスチャーゲームの様子

第二回は、カラオケ大会を実施した(参加者41名)。これは、定住外国人へのインタビューにおいて、外国人は歌うことが好きであるという話を伺ったためである。当日は、町の方々の積極的参加のおかげで大いに盛り上がった。歌を通して、世代間の交流ができた上、異国間だけでなく同国人同士の新たなつながりもできた。最後には、全員で「妖怪体操第一」を踊ることで場が一つになった。

第三回は、実際に大洗小学校から保護者宛てに配布された資料を使用してワークショップを行った(参加者45名)。活動は外国人と日本人混合の少人数グループで行われたが、全てのグループで教え合う様子がみられた。また、定住外国人の方々が自主的にゲームやクイズを企画・実施してくれたり多くの参加者が料理を持参してくれたりした。

計3回のおしゃべり広場を通して、多文化共生に関心のある多くの方々と結びつくことができ、発展的な活動の見通しを立てることができた。また、活動のために自主的に動いてくれる参加者、とりわけ子供たちが増えてきたことは今後につながる明るい兆候であるといえるだろう。従来のおしゃべり広場に比べ、より日常生活に結びついた交流および学びを提供できる場になりつつあると考える。



第三回おしゃべり広場(集合写真)

2. インタビュー調査

町の方々のニーズを把握すべく、外国人技能実習生のいる農家および水産加工場3か所、定住外国人3名(イギリス人男性、インドネシア人女性、ペルー人女性)に協力していただきインタビュー調査を行った。6月に実施した外国人技能実習生に対するインタビューでは、彼(女)らの生活の様子や日頃考えていることを垣間見ることができた。定住外国人へのインタビューでは「小学校からの通知が理解できない」といった悩みや、「漢字を勉強する機会を作ってほしい」といった具体的な要望を聴くことができた。このような声を、おしゃべり広場の活動(第3回)に反映することができたのは大きな成果であるといえるだろう。

その一方で、①私たちが「外国人は困っているに違いない」といった視点にとらわれていたこと、②継続的にフィールドおよび人々と関わっていくことが必要であること等に気づけたことも収穫の一つであった。さらに、これらのインタビュー調査を進めていく中で、外国人の方々と時間感覚や物事の進め方等の違いを感じる機会が多々あった。異文化を頭で理解するだけではなく身をもって体験することで、一步踏み込んだ対応の仕方を身につけることができたといえる。これらの経験は、今後、多くの外国人の方々と関係を構築していく上で必ずや活かせることであると考えられる。



技能実習生インタビューの様子

3. 八朔祭り

大洗町の方々との交流および外国人の生活を町の方々に知ってもらうべく、大洗国際交流協会と大洗応援隊！と連携して、八朔祭りに参加した。当日は、ほげほげカフェの一角を借りて、マレーシアカレーとパンのセット、アジアドリンクを販売した。



マレーシアカレー販売の様子

また、フェイスペイントの無料サービスを行うことで、多くの大洗町住民と交流することができた。さらに、外国人技能実習生へのインタビュー映像を放映することにより、大洗在住の外国人の生活に町民が触れる機会を提供することができた。その一方で、ビデオ放映に対するフィードバックを積極的に求めなかったことが反省点としてあげられる。

4. 大洗小学校での活動

外国人を保護者にもつ児童に対する学習支援および外国人保護者との関係構築を目的と

し、大洗小学校の取り出し授業へのサポートを開始した。この活動は、おしゃべり広場で大洗小学校教職員の方々と知り合い、外国人保護者および児童の現状・課題をうかがったことがきっかけとなりスタートした。この活動を通して、些少ではあるが児童の日常に近づくことができたといえるだろう。さらに、小学校に足を運ぶことにより、外国人保護者とも直接的な結びつきができつつある。このことは、今後の活動の可能性につながった。



大洗小学校の取り出し授業の様子

これからは、今年度の反省を踏まえ、現活動を充実させるとともに、多文化共生のネットワークづくりに貢献していきたい。それは、私たち自身の“まなび”にもつながることであると考える。